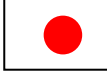


祝祭日には国旗を掲げましょう



しろたへ

安房神社報
第二十一号

令和三年水無月夏越の大祓



幾そたび かき濁しても すみかへる

水の皇国の 姿なるらむ

— 八田知紀 —

右の句は、水の濁りもやがて澄んで清くなるように国の変動もやがては落ち着くところに落ち着くという事を歌った和歌になります。作者の八田知紀は江戸時代末期から明治時代初頭を生きた鹿児島島の歌人です。又、明治維新という激動の時代を直に見てきた歴史の証人でもあります。

令和元年の台風十四号は安房地域に未曾有の大被害を出しました。更に令和二年初頭から続く新型コロナウイルス感染症は多くの人の暮らしに影響を及ぼしています。

しかし、台風で壊れた家屋も修繕が進み、新型コロナウイルス感染症もワクチン接種が進み感染者も減少してきています。

未だ厳しい世情ではありますが、徐々に希望も見え始めています。このような時だからこそ、目先に囚われることなく長い目で見て己の行いを律し、神の御心に添う生き方を心がけるべきではないでしょうか。

【執り行われた主な祭典】

四月十八日	午後二時半	御田植祭
五月十日	午前九時半	下の宮祭
五月二十七日	午前九時半	海軍落下傘部隊慰霊祭
六月十日	午前九時半	厳島社祭
六月三十日	午後四時半	夏越の大祓式※一般参列無し
七月十日	午前八時	忌部塚祭
八月十日	午前十時	例祭 ※神輿出御中止
九月十日	午前九時	御仮屋祭
九月十日	午後四時	抜穂祭
九月二十七日	午前九時半	琴平社祭
毎月一日	午前九時半	月次祭
十月十日	午前九時半	館砲三期会慰霊祭

【今後の主な祭典予定】

十一月二十三日	午前十時	新嘗祭
十一月二十五日	午前十時半	新穀感謝祭
十二月二十六日	午前九時半	神狩祭
十二月三十一日	午後四時半	大祓式・除夜祭
一月一日	午前六時	歳旦祭
一月四日	午後四時半	有明祭
一月十四日	午後四時半	置炭神事
一月十五日	午前九時	粥占神事
二月二日	午前十時半	節分祭
二月十一日	午前九時半	建国際
二月十七日	午前九時半	祈年祭
四月三日	午前九時半	神武天皇祭遙拝式
毎月一日	午前九時半	月次祭

※今年は新型コロナウイルス感染症予防の為、祭典規模を縮小して執り行っています。今後の感染の状況によって祭典の予定は変更されることがあります。

神社豆知識

【神社と服装】

神社で用いられている装束は古代の中国から伝わってきたものが発展したものになります。古代の日本では遣隋使、遣唐使を送り、中国大陸の文化を取り入れその影響を大きく受けてきました。しかし八九四年の遣唐使廃止から大陸の文化の影響が薄れた事から国情に合わせて独自の発展をしていく事となりました。日本の気候は温暖かつ湿度が高く、雨量も多い為、通気性などが重視されました。また朝廷の衰微や武家の台頭に伴い最適化をされ、江戸時代には「諸社禰宜神主法度」により神職の服装は制定されました。明治四年に発布された「服装を改むるの勅諭」による服制の変革により、洋装が礼服となり、和装は儀式に用いられるようになりました。宮中の儀式において中国風の礼服が用いられる事は無くなり束帯、衣冠の和装が儀式に用いられるようになりました。明治二十七年に定められた「神官神職服制」により神社祭祀に用いられる衣装も制度化され現在もその内容を踏襲しています。これは祭祀の格式により定められて、大祭に衣冠、中祭に斎服、小祭に狩衣と呼ばれる衣装をそれぞれ用います。衣冠は冠、袍、単、袴、笏、檜扇、浅沓からなります。これらは、神主の役割、階級によって定められた色の物を用います。斎服もまた、冠、袍、単、袴、笏、檜扇、浅沓からなります。色は役割、階級を問わず白色になります。狩衣は烏帽子、狩衣、単、袴、笏、浅沓からなります。狩衣は色や文様の指定はなく自由になります。

安房の国と式内社(一)

【安房の国の成り立ち】

安房の国は現在の千葉県南部を指し、現在の館山市、鴨川市、南房総市、鋸南町を指します。かつて忌部氏の先祖である天富命が東国を開拓した際に、この地方は麻の生育に適していた事から、本拠であった四国の阿波(現在の徳島県)から音を取り安房と呼称するようになりました。千葉県では同様に、中部と北部も同様に麻が豊かに、総総(ふさふさ)と育つ事から総の国と呼称されています。当時は陸路が危険な為海路が主要な道であり、畿内から見て北部の方が遠かった為、北部を下総、中部を上総と呼称しています。続日本紀によれば、安房の国は平郡郡、安房郡、朝夷郡、長狭郡の四郡にわかれています。九六七年に発令された延喜式神名帳において、安房郡には安房神社、洲宮神社の二社が、朝夷郡には天神社、莫越山神社、下立松原神社、高家神社の四社が記載されています。又、延喜式神名帳にある神社の事を式内社と呼びます。平安時代には国司が参拝する順番により格式が付けられ、安房神社を一宮、洲宮神社を二宮、天神社を三宮、莫越山神社を四宮、下立松原神社を五宮、高家神社を六宮としました。これらの六社の内、高家神社を除く五社は全て忌部氏に所縁の神様を御祀りしており、密接に結びついていることが伺えます。

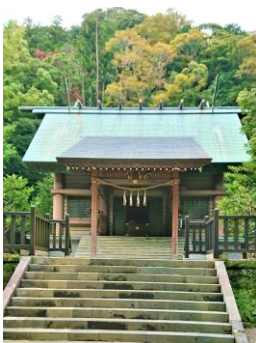
【安房神社】

安房神社は神武元年に東国開拓の命を受けた天富命様が忌部氏の祖神をこの地に御祀りすべく創建されました。上の宮に忌部氏の祖神である天太玉命様を主祭神として御祀りし、后神である天比理刀咩命様を相殿として御祀り

しています。天太玉命様は、天照大御神様が天岩戸に隠れた際に儀式に用いる道具を用意されたことから工匠祖神として崇敬されております。下の宮には開拓に携わった天富命様と弟君の天忍日命を御祀りしています。関東にありながら古くから朝廷に崇敬され、平安時代には旧制の安房郡を授けられ、伊勢の神宮をはじめとする全国に七社しかない神郡を有する神社となりました。室町時代には里見氏により社殿の修造が行われ、江戸時代には幕府より社領の寄進がありました。明治時代に入ると官幣大社に列せられています。

【洲宮神社】

洲宮神社は神武元年に天太玉命様により創建されました。御祭神は天太玉命様の后神である天比理刀咩命様を御祀りしています。元は州神(すのかみ)様と呼ばれ海の神さまとして信仰されています。はじめは明神山に御鎮座されていましたが鎌倉時代に魚尾山(とおやま)に御遷座しましたがその後火災により社殿を焼失し長く仮殿に御祀りされてきました。室町時代には現在の境内地に御遷座して今に続いています。例祭日には明神山まで神幸する浜降神事(御浜出神事とも)が行われています。現在では明神山から海岸線まで二キロメートル近くありますが、考古学、地理学の両面からの調査によればかつては明神山のふもとまで海岸線が伸びており、神事の名前にその名残が見られます。洲宮という言葉の意味を見ても、かつては海に御鎮座されていた事が伺えます。又、現在の境内地からも古代の祭祀器具が発掘されており、神事と密接に繋がった地であった事が伺えます。



上 安房神社社殿



上 洲宮神社社殿

安房あづち茶屋

安房神社の神池前には「安房あづち茶屋」がございます。

秋に色づく神池後方の吾谷山あづちを眺めながら、癒し処として心静かに穏やかなひとときを過ごされますよう御利用下さい。

温かいおにぎりセットや、おみやげ物として房州銘菓もございます。是非お立ち寄り下さい。



新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、しばらくの間休業いたします。御了承ください。

※境内自由参拝について

大晦日のみ終日参拝が可能ですが、それ以外については、早朝六時〜午後六時までとなっております。

警備・防犯上の都合により、時間外は境内への立入りを一切禁止しております。

※冬季は日没が速い為、防犯の理由から時間前に閉じる場合があります。

【御水取り・御砂取りの作法】

当社で「御水取り・御砂取り」をされる際には祈禱受付にて御申込み頂き、殿内にて御抜いを受けた後に御水取場・御砂取場にお進み頂いております。

これは御本殿近くの清浄な御水取場・御砂取場に、外界の穢れを持ち込まない為の重要な作法です。御時間に余裕を持って御来社されることをお勧め致します。また大型ポリタンクなどによる大量の御水取り、過度の御砂取りは御遠慮願います。なお、御神水飲用の際には必ず煮沸いただきますようお願い致します。

※一般参拝者の御水取場・御砂取場への立入りは右記の理由から禁じております。また時間外の御水取り、御砂取りは一切出来ませんので、必ず受付時間内にて御申込み願います。

- ・ 神符守札の授与、御朱印
- ・ 午前八時三十分〜午後五時
- ・ 御祈祷、御水取りの受付
- ・ 午前九時〜午後四時



令和二年十月二十六日発行／安房神社々務所
 〒二九四・〇二三三 千葉県館山市大神宮五八九番地
 電話 〇四七〇二八・〇〇三四
 FAX 〇四七〇二八・〇四三八
 HP <http://www.awajinoya.org/>
 Face Book 下記QRコード参照

